

製品名: HDAC2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11943**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	HDAC2
別名	HDAC2; Histone deacetylase 2; HD2
遺伝子 ID	3066.0
SwissProt ID	Q92769
免疫原	抗血清はヒト HDAC2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 360-409

背景

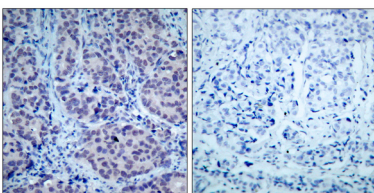
この遺伝子産物はヒストン脱アセチル化酵素ファミリーに属する。ヒストン脱アセチル化酵素は、大きな多タンパク質複合体の形成を介して作用し、コアヒストン（H2A、H2B、H3、および H4）の N 末端領域のリジン残基の脱アセチル化を担う。このタンパク質

は、哺乳類のジンクフィンガー転写因子である YY1 を含む多くの異なるタンパク質と会合して転写抑制複合体を形成する。したがって、転写調節、細胞周期の進行、および発生過程において重要な役割を果たしている。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2010年4月]、触媒活性: ヒストンの N(6)-アセチルリジン残基を加水分解して脱アセチル化ヒストンを生成する。機能: MAD、SIN3、YY1、および N-COR と会合して転写抑制複合体を形成する。DNA複製の後期S期において、DNMT1、DMAP1、PCNA、CAF1 からなる他の転写抑制因子複合体において DNMT1 と相互作用する。機能: コアヒストン (H2A、H2B、H3、H4) の N 末端部分のリジン残基の脱アセチル化を担う。ヒストンの脱アセチル化は、エピジェネティック抑制の標識となり、転写調節、細胞周期の進行、発生過程において重要な役割を果たしている。ヒストン脱アセチル化酵素は、大きな多タンパク質複合体の形成を介して作用する。配列注意:イントロン保持。類似性:ヒストン脱アセチル化酵素ファミリーに属し、タイプ1サブファミリーに属する。サブユニット:H2AFY の非ヒストン領域と相互作用する(類似性による)。HDAC1、HDAC2、RBBP4、RBBP7 からなるコアヒストン脱アセチル化酵素(HDAC)複合体の一部である。コア複合体は、MTA2、MBD3、MTA1L1、CHD3、CHD4 と会合してヌクレオソームリモデリングおよびヒストン脱アセチル化 (NuRD) 複合体を形成するか、SIN3、SAP18、SAP30 と会合して SIN3 HDAC 複合体を形成する。HDAC1、HDAC2、HMG20B/BRAF35、AOF2/LSD1、RCOR1/CoREST、PHF21A/BHC80 を含む BHC ヒストン脱アセチル化酵素複合体の構成要素である。BHC 複合体は、ZMYM2、ZNF217、ZMYM3、GSE1、GTF2I を含む場合もある。コアヒストン H2A、H2B、H3、H4、DEK、および非リン酸化 DAXX を含む複合体の一部である。ATR および CHD4 を含む複合体の一部である。少なくとも YY1 と異種複合体を形成する。ATR、DNMT1、MINT、HDAC7、HDAC10、HCFC1、NRIP1、MJD2A/JHDM3A、PRDM6、SAP30、SETDB1、SUV39H1 と相互作用します。H2AFY の非ヒストン領域と相互作用します。PELP1 と相互作用します。SIN3A、SAP130、SUDS3/SAP45、ARID4B/SAP180、HDAC1、HDAC2 を含む mSin3A コリプレッサー複合体の構成要素です。CBFA2T3 と相互作用します。SAP30L と相互作用します。組織特異性: 広く発現していますが、脳と肺では発現レベルが低いです。

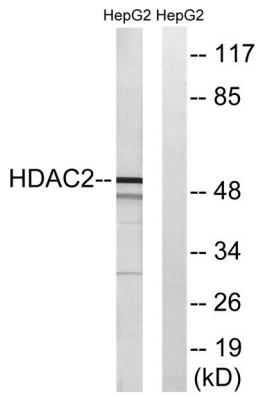
研究分野

細胞周期 G1S;細胞周期 G2M_DNA;タンパク質アセチル化

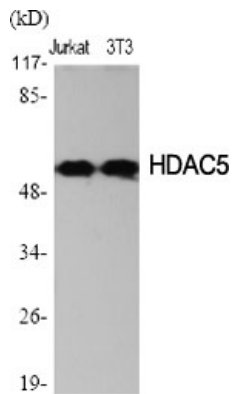
画像データ



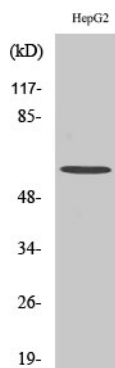
HDAC2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



HDAC2抗体を用いたHepG2細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000希釈のHDAC2ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



1: 2000希釈のHDAC2ポリクローナル抗体を用いたHepG2細胞のウェスタンブロット解析